

一般社団法人  
日本音楽療法学会ニュース発行 一般社団法人日本音楽療法学会  
理事長 藤本 禮子 副理事長 猪之良高明 副理事長 二俣 泉

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 HK浜松町ビル 6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



## 更新規則を改定することについて

更新規則検討委員会  
委員長 那須 貴之

更新規則検討委員会では2025年度の更新（2025年秋の申請開始分）より新たな更新規則を適用させるべく作業を進めています。なぜ更新規則を改定するのか、それは改定する必要があるからです。改定の目的は、更新者の更新に係わる作業を簡便にし、更新に係わる様々な負荷を軽減することです。

資格に関して、認定制度は「音楽療法を行う知識・技能・資質のあることを日本音楽療法学会が保証するもの」という趣旨があります。そして更新の趣旨は、今までは「現在も音楽療法士としての資質を満たしていることを保証するためのもの」でした。しかし今後は「学び続けていることを学会が認めるもの」と変更します。

今回の改定後、特に適用前後において更新に該当する多くの音楽療法士の皆さんには不安や混乱が生じるであろうと予測しております。そもそも更新の審査は更新しようとする全ての音楽療法士に更新してもらうことを目指しています。皆さんにとって不利に働かないよう配慮に努めたいと思っております。尚、改定更新規則は本年度中に全体像を皆様にお知らせできるよう作業を進めております。今後の学会からのお知らせ等でご確認ください。

更新規則検討委員会として、今回お伝えしたいことは上記に尽きます。ここからはひとりの音楽療法士としてのつぶやきです。お時間の無い方は飛ばしてください。

日本音楽療法学会ホームページの沿革を見ると、日本において音楽療法士の認定が始まったのは1997年と記載がありました。皆さんは携帯電話、スマートフォンさらにはインターネットを当たり前、さらには生活の必需品として使われているかもしれません。その携帯電話は1990年代後半になって普及し始めました。1990年代前半は、まだポケベル（知っています？）が主流でした。そしてインターネットが一般家庭に普及し始めたのは1995年からです。1995年当時にインターネットが、そして後にスマートフォンが生まれ、今のような社会になることをどれだけの人が思っていたのでしょうか（その可能性を知っていた人がいたから今があるわけですが）。つまり音楽療法士の認定は携帯電話が普及しはじめたのとほぼ同時に始まったということになります。ちなみに最初のスマートフォンが発表されたのは2007年で、翌年から日本でも本格的に広がり始めました。

なにが言いたいかというと、文明の進化速度は加速度的に速くなっていると言われており、以前は10年かけて進化していたものが今では1年でできてしまう。そんな時代に我々は“いま”生きているということです。“いま”からの1年後はどのような時代になっているのでしょうか。私が“いま、ここ”で書いているこの文章も、みなさんの手元に届くころには既に時代遅れになっているかもしれません。とはいえ、新しい物事を追い求めること、新しい物事が常に良いと言いたいものではありません。本質を大切にしつつも新しいことも取り入れていくこと、また新しいことを取り入れていくことこそ本質でもある。それが松尾芭蕉の言った「不易流行」であり、私自身はこの言葉を大切に改定作業に取り組んでいるつもりです。更新規則は時代に合わせて小さな改訂を繰り返しながら現在に至っています。しかし、今回は大きく変えることとなります。文明や科学技術だけでなく世の中の有り様も、そして音楽療法士を取り巻く環境も常に変化しているのに、いつまでも同じ規則を使い続けるのは現実的ではないように思っています。更新規則を変えるのは、時代や状況に適応させる作業と思っています。きっとこれからも変わっていくことでしょう。

改定作業を進める過程は、自分自身が「ひとりの更新する立場として」更新の意味について自問自答する機会となりました。というものの、まだ答えは見つかっておらず、今もその過程にあります。しかし、これだけは理解しています。結局のところ音楽療法士でありつづけること、臨床を続けるということは「もがき続ける」、「悩み続ける」、そして「学び続ける」ことなのであるということです。本来これらは個々で音楽療法士としての責任を果たすために自分自身で向き合い、取り組むことであろうと思います。しかし、学会が認定資格を認めている以上は学会として「学び続けていること」を確認しないとイケない、それが認定資格の更新審査の意味である。そして学会は更新制度を通して音楽療法の均てんに取り組む。このように個人と学会とが両輪となることで支援を必要とする方への貢献につながる。これが更新規則制度の目指す“かたち”ではないかと思えます。随分と大きなことを書き綴りましたが、今の時点で自分の中にある更新規則改定に関してお伝えしたい精一杯の思いです。

## 第23回学術大会を終えて

大会長 菅田 文子



9月1日から3日にかけて、第23回日本音楽療法学会学術大会が岐阜県長良川国際会議場で開催されました。現地にお出でいただいた皆様、オンデマンドにて参加された皆様、ありがとうございました。

今回のテーマの多様性について、参加者ひとりひとりが考える機会になればと思っていました。多くの当事者の方たちに壇上に登っていただき、言葉やパフォーマンスで私たちにメッセージをいただきました。

コロナ禍の影響がまだある中で、完全に元通りとはいかないまでも対面による発表やシンポジウムが数多く行われた大会となりました。会場に来られた方たちからは、対面で得られる人との交流や熱気が嬉しかったとの感想をいただきました。

参加された皆さんからはお褒めの言葉だけではなく、運営その他について厳しいご意見もいただいております。反省すべき点は反省して実行委員会で共有し、次の実行委員会に引継ぎをいたします。

以下、嬉しかったことについて述べます。

まず、東海支部の皆さんの惜しみないご協力により、今回の大会を円滑に行うことができました。座長や査読、研修会講師の依頼に至るまで皆さんの力を多くお借りしました。

岐阜県では過去に自治体による認定が行われてきた経緯があり、岐阜県音楽療法士と言われる人達が東海地方を中心に活動しています。学会認定を得ている人、得ていない人さまざまですが、今大会ではボランティアの中心メンバーとして協力していただけました。久しぶりに学会の雰囲気に触れて、これからも頑張ろうと思ったと言っていました。

市民ギャラリーという展示販売に一番いい場所を、ライブの会場にしました。当事者の方たちにも多く出演していただき、音楽療法学会らしく音楽に溢れた大会になりました。音楽そのものの力が私たちを元気にしてくれているように感じました。

私が音楽療法で担当している方が、ヘルパーさんと一緒にライブを見に来てくれました。受付で名札をもらい、自分で名前を書いて首にかけることが嬉しかったらしく次のセッションにも持ってきてくれました。一人前に扱われたのが嬉しかったのかなとお母さんが言うておられて、喜んでもらえてよかったと思っています。

私自身が多様性について確固とした見識を持っているわけではありません。しかし今回当事者の方たちの生の言葉やパフォーマンスから、自身の音楽の価値観を見直すことになり、これは私にとって大きな学びでした。

準備が始まってから時間も労力も注いできた大会ですが、得たものも多く、担当させていただき感謝しております。

## 第24回日本音楽療法学会学術大会に向けて

大会長 近藤 里美

来年2024年9月27日～29日に、北海道の地で日本音楽療法学会学術大会が開催されます。北海道支部では、評議員全員が頭に浮かぶキーワードやアイデアを持ち寄り、第24回目となる学術大会のテーマを、「集い 繋がり 語り合おう～さらに拓かれる音楽のちからを」とさせていただきます。

2019年からのコロナ禍を通じて、音楽療法は、その存在意義が揺らぐほどの大変な状況を強いられました。いのちを生きることに必要不可欠であると思っていた音楽は、私たちの生命を守るために、これまでの姿を変えざるを得なくなりました。しかしそれは同時に、私たちが「音楽は人が生きることに本当に必要なのか？」という根源的な問いを再考する貴重な機会を与えてくれたとも感じます。

「ソーシャル・ディスタンス」という造語の下、音楽はオンライン機能や動画配信機能を駆使してその姿を変えながらも、消滅することはありませんでした。つまりそれは、どうかして音楽と繋がりたいという私たちのエネルギーの表れであったと思います。

今、私たちはこれまで以上に音楽は人が生きることに必要であることを知っています。古代から現在そして未来への時間の中に、人が生まれてから死ぬまでの生活の中に、脳神経科学のマイクロな世界から全人的 well-being のマクロの世界の中に、そして医療・保健・福祉・教育の臨床の場の中に、音楽は様々な姿を変えながら私たちが生きることと繋がっています。

そこで今回は、久しぶりに皆で集い、繋がり、語り合うという、社会的存在としての私たちのニーズに応えることはもちろんのこと、私たちが様々な学問や分野にアンテナを張り、繋がり、語り合い、さらに拓かれる音楽の「ちから」を探求することをテーマとしたいと考えました。

現在、北海道支部では、大会のあらゆる側面に大会テーマが反映されるように以下の4点について計画中です。

- 1) 演題発表や自主シンポジウムなど、対面でこそ意味のある企画を計画するとともに、オンデマンドを活用した多様な講習会やポスター発表の募集を予定します。
- 2) 学術的交流だけでなく、懇親会では、「M1グランプリ」ならぬ「MT1グランプリ」と題して、個人またはグループでの音楽に関するあらゆるパフォーマンスを募集します（各支部から1人または1組の予定）。秘密にしていた音楽の隠し芸を披露してくださるもよし、会場の方々に巻き込む楽しい音楽もよし、ぜひ各支部から選りすぐりの方達を推薦してください。もちろん、懇親会参加者全員が審査員となり、優秀賞には素晴らしい?! 賞品を用意いたします。
- 3) 大会のご案内については、経費軽減と環境への配慮を鑑み、できるだけペーパーレス化を目指し、大会ホームページを最大限に活用していただけるように準備いたします。また、大会参加とともに、北海道の魅力を満喫していただくため、地元力を活かした北海道の観光情報を、大会前から発信させていただこうと考えています。
- 4) 大会オリジナルグッズを企画、販売いたします。現在、天災や人災、貧困そして戦争により困難な生活を強いられ、音楽療法あるいは必要とされる音楽が届かない状況にある人たちへ、少しでも音楽ができる環境を支援するため、大会オリジナルグッズを企画、販売し、その収益金の全てを寄付したいと考えています。購入される方にとっては、大切な大会の思い出になることはもちろん、大会オリジナルグッズを使っていたり、お土産にいただいたりすることで、周囲の方々への音楽療法の広報に少しでも貢献したいと考えています。なお、寄付先につきましては世界音楽療法連盟に相談しながら決定いたします。

9月の北海道は、色鮮やかな紅葉と、北の大地の恵を満喫できる季節です。私も準備委員一同、皆様をおもてなしできるよう、精いっぱい準備いたします。お一人でも多くの仲間と一緒にご参加くださることを、お待ち申し上げております。

# ■ 国家資格推進委員会報告 ■

国家資格推進委員会  
委員長 藤本 禮子

今回この学会ニュースで国家資格推進委員会の活動を報告するにあたり、何よりも先ず「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟（略称 音楽支援議連）」が発足したことをお伝えします。

2001年、日本音楽療法学会の前身である全日本音楽療法連盟は、音楽療法士の国家資格化の活動を開始しました。その活動は2004年に一旦休止しましたが、2018年公明党音楽療法推進プロジェクトチーム（MTPT）が組織され、音楽療法士の国家資格化の活動は再び動き出し、5年間の活動の結果、「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟」が組織されました。

音楽療法士の国家資格化は議員立法によるものであることはこれまでもお伝えしてまいりました。国会に国会議員が法案を提出する議員立法の場合、国会議員一人では提出することはできず、衆議院では20人以上、参議院では10人以上の国会議員の賛成者が必要とのことです。また上程した法案は、その場の全ての議員が賛成することによってのみ承認されます。つまり音楽療法士の国家資格化の法案が認められるためには、音楽療法士の国家資格化に賛同し、協力して働きかけてくださる多くの国会議員が必要になります。そのための大きな一歩として「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟」が発足しました。

以下、これまで通り、学会ニュース第45号以降の国家資格推進委員会の活動について、1. 国家資格化に向けた国会議員などへの働き掛け 2. 会員の皆様との国家資格化情報共有の活動 3. 音楽療法の社会的認知を進める活動、に分けて報告いたします。

## 1. 国家資格化に向けた国会議員などへの働きかけ

2023年

4月14日 秋野公造参議院議員を藤本理事長、猪之良副理事長、二俣副理事長、長居由子代議員、中林亜衣代議員が訪問しました。長居代議員、中林代議員は、当事者（重症心身障害者）の家族としての立場から音楽療法の必要性を伝えました。秋野議員との会見後、正副理事長は参議院法制局を訪れ、法文化に向け、今後一層の協力をお願いしました。

6月1日 「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟（略称：音楽支援議連）」総会開催準備のためのインナー会議が開催されました。

**6月20日 「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟（略称：音楽支援議連）」第1回総会が開催されました。**

名誉顧問嶋下一郎（元衆議員議員）、会長上川陽子衆議院議員、会長代行浮島智子衆議院議員、幹事長秋野公造参議院議員、事務局長佐々木さやか参議院議員、副事務局長国光あやの衆議院議員、その他多くの衆参議員が集まり「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟」の第1回総会が衆議院議員会館で開催されました。上川会長からは、会長就任挨拶及び設立の趣旨を述べられました。日本音楽療法学会から藤本禮子理事長、二俣泉副理事長が出席し、当学会の音楽療法士国家資格化への道のり、当学会が目指す音楽療法士像について述べました。

9月26日 参議院法制局から、2022年11月に学会から参議院法制局に提出した文書に対する質問状が届きました。現在回答作成中です。

## 2. 国家資格化情報共有の為の活動

9月1日（金）、2日（土）、3日（日）に第23回日本音楽療法学会学術大会（岐阜）が開催され、9月2日（土）に、国家資格推進委員会企画による2題のシンポジウムを実施いたしました。

シンポジウム1「認知症予防と音楽療法 音楽療法は疾患予防にどのように貢献できるか」の登壇者と講演順は下記のとおりです。村林信行常任理事の司会のもと進められました。

- ・浦上 克哉（一般社団法人日本認知症予防学会代表理事）～認知症予防の最前線と音楽療法への期待～
- ・西野 憲史（一般社団法人日本認知症予防学会副理事長）～日本認知症予防学会と日本音楽療法学会のこれまでの関わりとこれから～
- ・秋野 公造（参議院議員・一般社団法人日本音楽療法学会顧問）※ Zoom での参加～音楽の活用とどのように診療上の評価を

与えるか～

- ・藤本 禮子（一般社団法人日本音楽療法学会理事長）～音楽療法が未病者を対象とするときに考慮すること～  
以上の登壇者から、音楽療法が認知症予防にどのように貢献できるか、幅広い議論が交わされました。

シンポジウム2「国家資格化は今！—5— ～国家資格化へ向けて、これから～」の登壇者と講演順は以下のとおりです。木下容子理事の司会のもと進められました。また、シンポジウム1に登壇していただいた浦上克哉日本認知症予防学会代表理事からあいさつをいただきました。

- ・上川 陽子（衆議院議員・一般社団法人日本音楽療法学会顧問）
- ・秋野 公造（参議院議員・一般社団法人日本音楽療法学会顧問）※ Zoom での参加
- ・藤本 禮子（一般社団法人日本音楽療法学会理事長）
- ・二俣 泉（一般社団法人日本音楽療法学会副理事長）

以上の各登壇者の講演の後、藤本禮子理事長、二俣泉副理事長からの質問に、上川陽子衆議院議員に時間の許す限り答えていただきました。上川陽子衆議院議員から、音楽による支援を必要とする人々のために、音楽療法士のきちんとした位置付けが必要であるとの言葉があり、会場の参加者から大きな拍手がありました。

### 3. 音楽療法の社会的認知を進める活動

○5月26日 第2回 Music Therapy Concert が開催されました。

ミュージックセラピーコンサート実行委員会主催、一般社団法人日本音楽療法学会、株式会社白寿生科学研究所／Hakuju Hall 共催により、第2回 Music Therapy Concert ～音楽に生きる 音楽に癒される～ が開催されました。鴨下一郎氏と湯川れい子氏による音楽療法についての語り合い、服部百音氏（ヴァイオリン）、三又瑛子氏（ピアノ）による演奏が行われました。当日会場には多くの方々が参集されました。

○他団体との関わり

2022年11月から、医療・福祉・教育などの団体、当事者団体など、他団体との関わりを進めています。そこでは、日本音楽療法学会の概要、音楽療法の概要・必要性、音楽療法士の実情などを説明し、関連団体からは音楽療法のニーズや音楽療法への考えなどを伺い、必要に応じて音楽療法の体験会や講習会等を開催させていただくことをお伝えし、最後に国家資格化に向けての理解と協力をお願いしています。この働きかけは今後も続けてまいります。

以上、学会ニュース45号以降の国家資格推進委員会の活動の報告をいたしました。

今回は、なんといっても「音楽の力を活用して生きる力を支援する議員連盟（音楽支援議連）」の発足が大きな出来事です。これはゴールではありません。音楽療法の有用性 専門性 必要性などについて活発に議論され、共有され、音楽療法士の国家資格化を進めるための基地です。「音楽療法士の国家資格化」を着実に力強く前進させるためには、繰り返しになりますが、会員の皆様が「音楽療法を実践する中で、音楽療法の有用性、必要性、専門性を明らかにし続けること、音楽療法を必要とする全ての人々に質の担保された音楽療法を届け続けるために音楽療法士の国家資格はどうしても必要である」という強い信念をもって社会を動かし続けることが必要です。

会員の皆様には、これまで以上に国家資格化の動きにご注目いただき、益々のご支援、ご協力をお願いいたします。

## ■ 日本音楽療法学会 2023年度 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会  
委員長 米倉 裕子

学び続ける民、音楽療法士の皆さま、こんにちは。日本音楽療法学会研修・講習委員会では、2023年度後半も、「オンライン枠」と「現地対面型枠」をバランス良く実施していく予定です。そして、後半のテーマは、「音楽療法の記録と研究を学ぶ」、「音楽療法にまつわる制度を学ぶ」、そして「音楽療法現場での音楽を学ぶ」の3つです。それぞれのテーマについてオンデマンドで3期、4期で学んでいただき、総仕上げとして来年2月に対面型講習として講師の先生から直接学ぶという構成でプログラミングしてみました。また、わくわく枠として、日本に来日中のフランス人のチェリストである Claire Oppert 氏より、フランスの緩和ケアにおける彼女の臨床についてのお話を伺えるまたとない機会をいただきましたので、是非多くの学び続ける民の皆さんと共有できればと考えております。

研修・講習委員会では、学会員おひとりおひとりの学びの選択の枠が広がっていくことに喜びを感じながら、今後も引き続き学びの計画と実施を推進していきたいと考えております。初代理事長日野原重明先生の理念である“keep on going”に則りまして、研修・講習委員メンバー一丸となって、これからも皆さんと一緒に学びの場を盛り上げてまいります。どうぞよろしく願い致します。

### 2023年度「オンデマンド型オンライン研修・講習会」

第3期：2023年11月1日（水）～2023年12月15日（金）配信予定

□2023・3rd・00-1・新作

音楽療法研究・音楽療法臨床全般：「音楽療法の記録と研究を学ぶ」

タイトル：事例の書き方を考える前に－臨床経験のプロセスとセラピストの関わりを考える－

内 容：音楽療法士は、日々自身の実施しているセッションについて記録をとり、他職種と情報交換・意見交換をし、次のセッションに備えることを繰り返していく。記録や振り返りを経て、対象理解が変わり（深まり）、活動内容や介入の仕方、また目標自体も調整していくことが考えられる。

これは現場に携わる音楽療法士、誰もが経験していることで、臨床経験を他の音楽療法士に、他の現場に、他職種に、「音楽療法の実際」として発信していくことには大きな意味がある。一方、臨床経験を「音楽療法の成果」として報告や研究にまとめていくことには、大きな違いを感じている方も多いのではないかと考えている。

本講座では、講師の一音楽療法士としての経験に基づいて、「違い」について研修・講習委員と意見交換をしながら考察していきたい。

講 師：今村 ゆかり 氏

プロフィール：



横浜国立大学教育学部卒業、同大学院教修士課程修了。教育学修士。日本音楽療法学会認定音楽療法士。主として成人精神科領域において、「精神科リハビリテーション」の一環としての音楽療法実践を行っている。東海大学・昭和音楽大学講師、(医) 哺育会横浜相原病院音楽療法士（リハビリテーション科所属）。

## □2023・3rd.・00-2・新作

音楽療法臨床全般・関連制度：「音楽療法にまつわる制度を学ぶ」

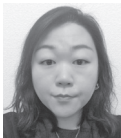
タイトル：音楽療法士が知っておきたい介護保険の仕組み～音楽療法の価値を伝える介護現場へのPRの仕方～

内 容：・ケアマネジメントサイクルを知ろう

- ・音楽療法のプロセスと介護保険のプロセスの関係性
- ・音楽療法を実施する前に入手すべき情報
- ・介護現場が必要としている評価・モニタリング
- ・ケアマネジメントサイクルとの連動
- ・企業からみる音楽療法の魅力って何だろう
- ・職員の心を掴むには「真似出来るもの」「真似出来ないもの」のバランスが重要！
- ・企業の心を掴むには付加価値としての材料PRが重要！

講 師：中道 史織 氏

プロフィール：



洗足学園音楽大学夜間音楽療法コース4期修了

障害児音楽自主グループ DreamLand、個人音楽療法室 melodydrops 代表

地域密着型通所介護だんらんの家入職

介護職員、生活相談員、管理者、エリアマネージャーを経て現在だんらんの家本部のSV課に所属、直営事業所の音楽療法を実施しながら管理者育成及び経営指導を行う

第4期：2024年1月15日（月）～2024年2月28日（水）配信予定

## □2023・4th.・00-1・新作

音楽療法研究・音楽療法臨床全般：「音楽療法の記録と研究を学ぶ」

タイトル：臨床研究に必要なデータ分析の基礎 —Excel 統計入門—

内 容：臨床研究において、データを扱う場面は多くあるでしょう。音楽療法の現場で取得したデータはどのように分析すれば良いのでしょうか。データを適切に分析するためには、データの種類を把握し、その種類に応じた分析手法を適用しなければなりません。本講座では、データ分析に必要な統計学の基本的な知識を習得するとともに、Excelでの分析例を紹介し、分析の結果からどのような解釈ができるのかを具体的に学びます。データ分析はハードルが高いと感じている方も、本講座を機にチャレンジしてみましょう。

〈主な内容〉(1)統計学とは、(2)データの種類、(3)データの集計と可視化、(4)データを代表する値、(5)データのばらつき など

講 師：長谷川 裕紀 氏

プロフィール：



武庫川女子大学共通教育部准教授（博士（工学））。専門は医用生体工学、教育工学。大学院より音楽療法の評価研究に従事し、特に生体指標を用いた客観的な評価に取り組む。第19回日本音楽療法学会学術大会では、講習会の講師を務め、「研究」をテーマに統計解析の基礎講座を担当した。

## □2023・4th.・00-2・新作

音楽療法臨床全般・関連制度：「音楽療法にまつわる制度を学ぶ」

タイトル：患者さんの苦しい時や最期の時を支える音楽療法士になるために～医療現場で働くということは？～

内 容：・日本の医療制度について

- ・音楽療法士が医療チームの一員となるには？
- ・圧倒的に少ない医療知識を増やすためには？
- ・音楽療法士がどうやって雇用を獲得するの？
- ・医療現場で働き続けるために必要なこと

講 師：北川 美歩 氏

プロフィール：



桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒、桐朋学園大学音楽療法講座修了、

社会福祉法人信愛報恩会 信愛病院にて音楽療法士として勤務

現在、同法人 みどりの樹清瀬 施設長

## □2023・4th.・00-3・新作

### 海外における音楽療法臨床・緩和ケア

タイトル：フランスにおけるシューベルト療法：自閉症、認知症、疼痛、そしてエンドオブライフに対する音楽療法実践25年の経験から

内 容：お届けするプレゼンテーションでは、フランスの音楽療法事情について、ビデオによる臨床例、またパワーポイントのスライドで患者さんの言葉をご紹介しながら、実際の臨床場面での演奏方法や工夫などについてお話をさせていただきます。もちろんチェロの演奏もするつもりです。

講 師：Claire Oppert 氏

プロフィール：



チェリストのクレール・オパールは、モスクワ音楽院音楽科、ソルボンヌ大学哲学科、トゥール大学芸術療法科を卒業。フランス、イタリア、ドイツ、南アフリカの国際音楽コンクールで入賞しており、現在はベルギーのワテルローにあるムジカ・ムンディ・スクールで教えている。過去25年間、音楽家としてのキャリアと並行して、アートセラピストとして、自閉症スペクトラム障がいの子どもたち、アルツハイマー病患者、緩和ケア病棟の終末期患者とワークをしてきており、ソルボンヌ大学、ランス大学、リール大学、セルジュ大学でアート・セラピーを教えながら、世界中の数多くの国際会議で科学的研究を発表している。2020年に出版された著書『Le Pansement Schubert』(Éditions Denoël) は、フランス国内のみならず国際的なメディアで絶賛され、2021年には Prix Littéraire des Musiciens を受賞した。

### ◆オンライン研修・講習会 視聴料

1本 一律2,000円 申込本数の制限はありません。また、視聴期間内であれば何度でも視聴いただけます。

### ◆申込み方法

・動画の申込み、視聴にはオンライン視聴用「マイページ」の作成が必須です。(※会員ポータルサイトのご自身のページとは異なります。) 学会ホームページの「オンライン研修・講習会」からお入りいただき、【マイページの作成・ログインはこちらから】ボタンから会員(非会員も)ご自身で作成ください。

・一度作成した「マイページ」は以後も引き続き使用できます。1人につき1マイページを作成してください。

### ◆受講ポイント

オンライン研修・講習会の取得ポイントは動画1本につき、「認定：2ポイント」「更新：2.5ポイント」です。

視聴し受講テストに合格することで取得できます。

### ◆オンデマンド視聴に関する遵守事項

いかなる方法においても「配信動画」の録画・録音、また資料等の登用は法律で禁止されております。ご注意ください。

## 2023年度「現地対面型研修・講習会」

2024年2月18日(日) 実施予定

◆本企画は、昨年度受講生の皆様のご要望にお応えして好評だった、一人の講師、または1つのテーマで1日3コマ連続受講の企画です。

## □2023・2nd. GT-1~3

◎プログラム ※3コマ連続受講が条件となります。

9:30	受付
10:00~10:15	挨拶・ガイダンス
10:15~11:45	第1講(90分)
11:45~12:45	◎休憩(昼食:60分)
12:45~14:15	第2講(90分)
14:15~14:30	◎休憩(15分)
14:30~16:00	第3講(90分)



## ■ A会場 講義&演習1

テーマ：「音楽療法研究・音楽療法臨床全般：「音楽療法の記録と研究を学ぶ」」

タイトル：「音楽療法士のためのエピソード記述ワークショップー実感を描くことで見えてくるものー」

◎講師：山本 知香 氏



滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター おとさぼ

○研修内容：音楽療法の実践では、クライアントもセラピストも、様々な心を動かして場に参加しています。どのような目標を立てるにせよ、音楽をどう感じ、相手をどう感じるかによって、セッションの結果は変わってくるはず。本講習では、そのような対人場面における実感を重視し、関わりの質の向上につながる省察をするため、エピソード記述という質的研究方法について紹介します。実践場面を文章にすることを通して、自分の心の中に隠されていた思いを発見したり、相手の反応の意味を理解したり……、いつの間にやら、芋づる式に大きな問いが立ち上がることもあるでしょう。実践の捉え方を一歩深めるために、ぜひ一度、エピソード記述を体験してみませんか。

## ■ B会場 講義&演習2

テーマ：「音楽療法臨床児童対象・関連領域」

タイトル：「子どもの行動のなぜ？が分かる、サポーターズ・トレーニング入門編ー私たちの対応について考えてみましょうー」

◎講師：丸谷 充子 氏



和洋女子大学家政学部家政福祉学科教授・臨床心理士、臨床発達心理士、公認心理師

田中 真寿美 氏



一般社団法人アッセンブリッチことばと心のひろば代表理事・言語聴覚士、臨床発達心理士、特別支援教育士、公認心理師

佐藤 菜穂 氏



都立広尾病院小児科・臨床発達心理士、公認心理師

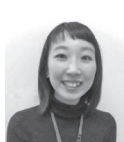
○研修内容：サポーターズ・トレーニングは、お子さんとご家族をサポートしている支援者の方々に向けて、ペアレント・トレーニングを基にアレンジしたプログラムです。子どもの行動に着目し、肯定的な働きかけを学び、支援者としてのスキルの習得を目指しています。行動理論を背景とした子どもの行動の理解、褒め方、対応の仕方、指示の伝え方、環境調整など、グループワークやロールプレイを通して実践的に学びます。子どもへの適切ななかかわりが、子どもとの関係を良好にし、「一緒に過ごすことがお互いに楽しい」と感じられるようになります。このような関係の中で、お子さんの発達は促進されていきます。今回の研修では、プログラムの入門部分の学びを行います。

## ■ C会場 講義&演習3

テーマ：「音楽療法臨床での音楽1（児童領域）」

タイトル：「児童領域の音楽療法実践 ～様々な現場での実践を想定して～」

◎講師：大山 祥子 氏



昭和音楽大学

○研修内容：本講習では、児童領域の音楽療法について、“基礎の基礎”を振り返りながら、実践的な学びを深めていきます。児童領域での実践経験が浅い方から、スキルアップをしたい方まで、皆さんと一緒に児童領域の音楽療法を考える機会にできればと思います。

【第1講】：職場で求められる音楽療法

対象児の理解や目標設定等に触れ、何をどう記録・評価し、誰と共有するのか、職場で求められていることや他職種との連携について考えていきます。

【第2講】：実践例の紹介

演習を通して、様々な実践現場での活動例をご紹介します。

【第3講】：自身の実践を振り返る

それぞれの実践を振り返り、ディスカッションを通して、セッションについて考えを深めていきます。

## ■D会場 講義&演習4

テーマ：「音楽療法臨床での音楽2（音楽療法臨床全般）」

タイトル：「実践者が「臨床を通して、成長するための自己アセスメント」

◎講師：智田 邦徳 氏



一般社団法人 えころん

平田 紀子 氏



日本音楽療法学会認定音楽療法士。東邦音楽大学准教授。千葉大学看護学部非常勤講師。日本演芸家連合会員

○研修内容：「明日のセッションのために練習する」こと以外に、そもそも自分自身には音楽的にどのような土壌があったか、どんな音楽的体験・下地が役に立ったか、役に立つか……という自らの持つ音楽的な財産や音楽療法に対する理想を振り返り、目を向けてみたい。

（技能的な担当部分）

- ・セッションでは対象者が元々持っている「健康な部分」が見受けられる。個々に合わせた「持てる力」を引き出せるような歌唱伴奏や合奏のアプローチを、対象者の変化を例にあげ解説する。
- ・先のコロナ禍では「歌うこと」が禁じられ、それに代わる代替方法が各現場で工夫され今に至っている。予期せぬ状況で事業主や多職種と連携、内容の変化や対象者の反応を紹介する。
- ・他職種へ向けた「運動と音楽」の組み合わせによる音楽療法の活動を提示する際に必要な知識について。演者とフロアの対話を通して、臨床家としての音楽療法士がいかにつながりを持ち孤立を防ぐか？についても考えを深めていきたい。

※都合により一部講師、内容の変更が生じることがあります。ご了承ください。

## ◆申し込み方法など

1. 対象者：正会員、学生会員
2. 日 時：2024年2月18日（日） 10：15～16：00（3コマ各90分）休憩11：45～12：45
3. 会 場：東京保健医療専門職大学（〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10）  
東京メトロ東西線 東陽町駅より徒歩10分
4. 受講料：1日3コマ受講： 正会員：9,000円 学生会員：3,000円  
※払い込み方法等は申し込みをした方に自動返信メールにてお知らせします。お間違えのないようにお納めください。
5. 定員：1日研修 A会場45名 B会場90名 C会場45名 D会場400名
6. 申込み方法：学会ホームページ内の「2023年2月18日（日）研修・講習会のご案内」ページよりお申し込みください。
7. 申込み受付期間：2023年12月16日（土）11：00～2024年1月11日（木）15：00  
※先着順で受け付け、募集定員になり次第、または、申込締切日をもって締め切ります。
8. キャンセル期限：2024年1月17日（水）15：00  
※申込ページ内のキャンセル申し込みフォームよりご連絡ください。  
※受講料より、キャンセル料（2,000円）を引いた金額をお返しいたします。  
※キャンセル期限以降は、一切返金できませんのでご注意ください。
9. 講習会受講ポイント：受講証は後日郵送いたします。  
※学会認定資格申請を目指す方は、受講後にレポート提出をすることで、レポートポイントがプラスされます。資格更新の方にはこのルールは該当しません。

◇多くの学び続ける民、音楽療法士の皆さまに、学びの場として活用していただけますことを研修・講習会委員一同楽しみにしております

## ■「初期設定」していただきましたか？ 会員ポータルサイト（旧名称：会員専用ページ）が始まりました。■

会員ポータルサイトワーキンググループ  
事務局

2023年10月から会員ポータルサイトの運用がいよいよ始まりました。

これまでの学会ニュースや総会での説明では「会員専用ページ」としていましたが、オンライン研修・講習会でも「マイページ」という用語を使っておりましたので、今後は「会員ポータルサイト」といたします。

会員ポータルサイトの機能が充実することで、学会に関する様々な事務手続きを効率的に行うことができ、また会員限定で共有できる情報等も増やしていきたいと考えています。このためにも、まず皆さんに初期設定をしていただく必要があります。

### ○郵送物について

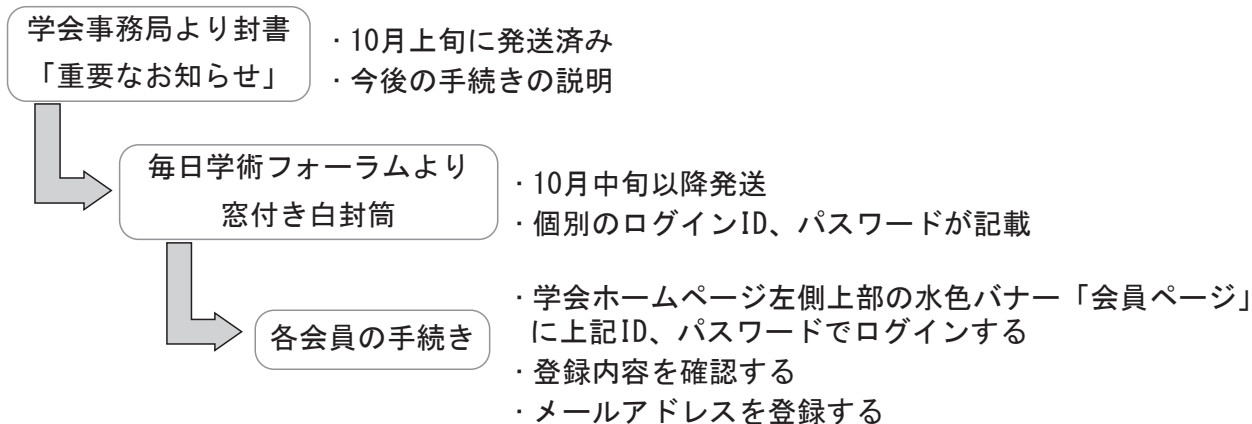
10月上旬に皆さんのお手元に、学会事務局から「重要なお知らせ」として、会員ポータルサイト（旧名称：会員専用ページ）開設についてのお知らせを郵送しました。お知らせ本文にも記載しておりますが、10月中旬以降に、今度は「株式会社毎日学術フォーラム」から、白い窓付き封筒に渋い赤で「重要ログインID・パスワード在中」と印字された封筒を郵送しています。こちらには、各会員ご自身のIDとパスワードが記載されています。このIDとパスワードによって会員ポータルサイトにログインができます（このIDとパスワードがないと、ログインできません）。見覚えのない方は、通常のダイレクトメールではありませんので、今一度郵便物を確認してください。また、封筒が届いていない方は、事務局にご一報ください。

開封し、ご自身のIDとパスワードを確認した方は、早速会員ポータルサイトにログインしてください。学会ホームページの（PC画面でいうと）左側に、青字で「会員ポータルサイト」と書かれたバナーがあります。そちらをクリックしご自身のID・パスワードでログインしていただくと、現在学会に登録されているご自身の情報を確認できます。詳細は、毎日学術フォーラムから郵送されている案内でも確認できます。

### ○初期設定について

初期設定の手順です。

- ・ご自身のID・パスワードでのログイン
- ・登録内容の確認、変更
- ・メールアドレスの設定



今後、学会からのご案内をメールでも送信することがありますので、メールアドレスは必ずご登録ください。

初期設定の操作がわからなくなった場合は、問い合わせ用のメールアドレス（maf-jmta-info@mynavi.jp）に質問することも可能です。

## ○会員ポータルサイトで可能な手続き等

会員ポータルサイトで可能な項目は、以下のようになっています。

### ・入退会、ご住所・ご連絡先の変更手続き

会員ポータルサイト導入後の手続きは、サイト内からご自身で行えるようになります。これまでの振込用紙通信欄への記入などの手続きではなく、ポータルサイトから確認しながら進めていくことができます。

※名義の変更と、会員区分の変更はポータルサイト上ではお手続きができません。学会ホームページ上から申請のお手続きをお願いします。後日ポータルサイト上に反映されます。

### ・クレジットカード決済での会費納入

郵便振替だけでなく、クレジットカードからの決済が可能になります。

### ・会費の納入履歴の確認

今後、理事・代議員選挙の投票、総会での議決権行使、講習会の参加申し込み等、徐々に運用範囲を広げていく予定で、将来的には、認定資格の更新申請等もポータルサイトから行えるように準備をしております。

会員ポータルサイトの活用により、スピーディーで効率的な学会運営ができるようになります。皆さまにはご面倒をおかけしますが、会員にとってより便利な、より使いやすい「会員ポータルサイト」にしていきたいと思います。

## ■ 第3回日野原賞受賞者の言葉 ～日野原賞を受賞して～ ■

### 〈論文部門〉

七原 真紀

この度は、大変栄誉ある日野原賞を頂き、大きな喜びを感じております。この研究は多くの方々の協力なしでは成し遂げられませんでした。心から感謝申し上げます。

本論文は、運動障害性構音障害（dysarthria）のある患者に対して、発声明瞭度の改善を目指し、1年間にわたる歌唱・発声訓練を行いました。また、録音した音声に対する音響分析（客観評価）と聴覚印象評価（主観評価）を分析し、聴覚印象評価をする者が音楽経験の有無によって評価の仕方に違いがあるかについても検証しました。これらの結果、リズムを強化した発声・歌唱訓練によって発声明瞭度が向上することが示されるとともに、客観評価と主観評価に相関があることが明らかになりました。また、聴覚印象評価をする際、音楽経験の有無に関係なく同等に評価をしていることが判明しました。これらの結果を受けて言語聴覚士がいない介護施設において、日々の口腔ケアにリズムを強化した発声・歌唱訓練のアプローチにより発声明瞭度の改善が図れます。更に、これらのデータ間の相関係数の高いパラメータのみを使用することで、コンピューターによる発声明瞭度の推定評価が期待できます。それにより、客観的なデータに基づいた歌唱リハビリテーションのフィードバックが具体的にになり、患者のモチベーションの向上に繋がると考えられます。今後は、データ数を増やし疾患別、発症からの年数及び年齢ごとの追加的な検証が必要です。

振り返りますと予てより音と言葉に強い関心があり、名古屋音楽大学修士課程へ進学し、構音障害のある対象者に対して歌唱訓練を行い、発声明瞭度に影響があるか歌唱音域と声量の音声分析による事例研究をしました。初めての音声解析に戸惑いながらも科学的に声を評価できる楽しさを覚え、その後、豊橋技術科学大学博士後期課程へ進学しました。博士課程の審査申請条件には英語論文が採録されている必要がありましたが、ある海外の学会誌でリジェクトされ単位取得満期退学を迎えました。しかし、このまま論文を仕上げなければ、折角取らせて頂いたデータが無駄になってしまい申し訳ないという気持ちが強くなり、幸い家族の理解も得られ、本学へ再入学することにしました。論文を書き直し投稿後の約半年間、別の実験（鍵盤楽器訓練）の解析と論文執筆をしながら回答を待ちました。回答結果は「このデータを世に出すべきですので修正ができれば採録します。」と条件付き採録をもらい、安堵と喜びの瞬間がありました。無事に博士の学位を取得したものの、海外での本研究発表には反応が少なく、音楽療法の科学的根拠にはなり得ないのかもしれない、と感じていました。それだけに、本学会で評価頂けたことに報われた思いです。

現在、発声明瞭度の推定の検証を行っています。また、家庭ICTリハビリテーションの構築に向け、歌唱音声アプリケーションなどの導入を検討しています。同時に、発語が困難な発達障害のある子ども達に対して、歌を伴う手話を用いた代替コミュニケーションについての研究も行っているところです。今後も研究成果が様々な障害に適用できるよう、日々精進してまいります。

### 〈活動部門〉

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぼ

山本 知香

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」では、障害児者の音楽支援に特化してさまざまな活動に取り組んでいます。今回、その活動を評価していただき、日野原賞という大変名誉ある賞を賜りましたことは、この上ない喜びであり、誠に光栄に存じます。また、日々おとさぼの活動に関わってくださっている関係者の皆様方へ、深く感謝申し上げます。

当センターは、全国でも珍しい、障害児者の音楽教育支援に特化した国立大学附属のセンターです。2020年10月に、篤志によって開設されました。「障害と共に生きる方々が、生涯にわたって音楽に親しむ機会を」という寄附者の願いを受け、障害児者の暮らしを“音”で“サポート”することを目指しています。大きく分けると、アウトリーチ、インリーチ、指導者研修会、パイロットプログラムの4つを軸に活動を展開しています。どの活動にも、参加者のニーズに寄り添った内容を考え、その場の雰囲気に対応させながら展開していこうとする、音楽療法的な視点が活かされています。

当センターにおける音楽療法的な支援が必要な方のためのピアノレッスンと並び、インリーチ事業に位置付けられます。今後さまざまに変化していく可能性はありますが、現在おとさぼで展開している音楽療法は、子どもの心の動きや、音楽療法士とのコミュニケーションなどを重視し、即興的にセッションをすすめていくという特徴をもつ、個人音楽療法です。音楽療法士によって準備された内容をこなすのではなく、様々な楽器の置かれたセッションルームにやってきた子ども自身が、「今日は何をしよう」と自分で考えるところから始まります。子ども自身が、今の気分や気持ち、欲望に気づき、本来の自分のペースを大事にしながらか自分のやりたいことを見つけ、それを音楽療法士が音楽の力を借りてサポートします。そうして、「人と共に生きる、他の誰でもない自分」として自信をもって人生を生きる主人公として育っていくこと、心の根っこを丈夫に育てることを目指していきます。事前に用意されたプログラムがない、というのは、もしかするとかなり少数派のやり方になるのかもしれませんが、個々のニーズに応じた特別支援教育の必要性が謳われる今、一人ひとりのニーズに応え、主体の育ちが期待できる音楽療法への期待は、高まってきているように感じます。

おとさぼの音楽療法は、まだまだ始まったばかりです。日野原先生のキープ・オン・ゴーイングの精神に学びながら、持続可能な音楽療法拠点として地域に根差していけるよう、今後も努力して参りたいと思います。この度は、誠にありがとうございました。

## 学会事務局からのお知らせ

### ■ 2023年度資格審査を申請される方へ

2023年度資格審査（面接試験）の申請期間や申請方法等につきましては、学会ニュース春号（45号）もしくは学会ホームページをご確認ください。

### ■ 2023年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2023年10月27日（金）までに提出された更新および猶予申請の審査結果は2024年2月初旬までに通知されます。

### ■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2022年度分未納の方は、このまま滞納が解消されない場合、2024年3月末にて会費未納退会となります。未納会費がある状態で退会されますと、再入会するには通常の入会費用の他、未納会費の納入が必要となります。

なお、会員ポータルサイトの導入にともない、クレジットカードでのお支払いが可能となりました。是非ご利用ください。会員ポータルサイトに関するご案内は14～15ページをご覧ください。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口

払込先 郵便振替口座 加入者名：日本音楽療法学会 口座番号：00120-9-657711

※郵便局備え付け払込用紙や、インターネットを介して振込まれる場合は、通信欄等に、お名前、会員番号、年会費である旨をご記載いただきますようお願いいたします。

### ■ 「団体総合保障保険」のご案内

音楽療法士の業務保険を同封のパンフレットのとおりご案内します。保険については加入を希望される方は冊子裏面の「保険申込FAX連絡票」を切り離し、必要事項を記入してFAX送信してください。加入依頼書が届きますので必要事項をご記入の上署名捺印をして送付してください。この保険は日本音楽療法学会会員専用として特別に設定したものです。加入者が少ない場合廃止となりますので奮って加入いただきますようお願いいたします。なお、この保険についてのお問い合わせはTEL：044-244-8931のセントラル保険までお願いします。

### ■ 入会案内パンフレット取寄せについて

会員の方は、学会の入会案内パンフレットを20部まで無料でご請求いただけます。学会ホームページ上のお問い合わせ欄、もしくは郵送にて必要部数を明記の上ご請求ください。送料や返信用封筒の送付は不要です。なお、学会ホームページ上、「各種刊行物」ページ内にデータが掲載されておりますので、ご自身でダウンロードし、印刷することも可能です。

### ■ 学会ホームページからの規則書閲覧について

学会ホームページにて各規則書の抜粋版を閲覧いただくことができます。メニューより「ダウンロード」を選択し、規則書ファイル（PDF）をダウンロードしてご覧ください。

### ■ 学会ホームページ「お問い合わせ」について

学会ホームページよりお問い合わせを受け付けております。学会ホームページや学会ニュースなどの広報媒体や認定規則書等の発行物で確認ができない事項についてご質問がある場合は、学会ホームページメニュー「お問い合わせ」より必要事項を入力して送信してください。回答はご記入いただきましたメールアドレスにメールで送信されます。尚、ご回答までにはお時間を要する場合がございますので、あらかじめご容赦ください。

### ■ 「スーパービジョンの手引」のご購入について

スーパービジョン検討特別委員会編纂の「スーパービジョンの手引」が発行されています。（A4版60ページ、2015年8月発行）購入を希望される方は37ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 認定音楽療法士対象 ピティナとの情報共有サービスについて

一般の方々への「音楽療法士資格を保有するピアノ指導者」の情報提供を目的として、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）との間で、学会認定音楽療法士有資格者の情報共有サービスを開始しました。条件を満たす方はピティナ Web サイト上のピアノ教室紹介ページに「音楽療法士マーク」を無料で表示することができます。ご希望の方は下記に沿ってお申し込みください。

対象者：日本音楽療法学会認定音楽療法士 かつ ピティナ会員である方。

申込方法：会員名、学会とピティナ両方の会員番号を明記の上、「ピティナ ロゴマーク表示希望」として学会事務局宛にメールをお送りください。

メールアドレス jmta.ptna@jmta.jp

注意事項：申し込み先はピティナ事務局ではございません。

申し込み後、ロゴマークの表示までに日数を要しますのでご了承ください。

認定音楽士資格が失効した場合、ロゴマークの表示は中止されます。



## ■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B 5 版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は37ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 「音楽療法臨床ハンドブック」のご購入について

学術研究委員会編纂による「音楽療法臨床ハンドブック」が発行されています。（A 4 版114ページ、2019年4月発行）購入を希望される方は37ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 〈DVD「音楽のちから2012」～音楽療法が拓く可能性～〉のご購入について

一般の方に視聴していただくのに最適な15分間の音楽療法の啓発 DVD が発売されています。購入を希望される方は37ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

## ■ 事務局への各種お届けについて

### ●住所・連絡先・メールアドレス変更

市町村の合併などを含め住所および連絡先、登録のメールアドレスに変更がある方は、会員ポータルサイト内にてご自身の登録情報の変更を行ってください。会員ポータルサイトに関するご案内は14～15ページをご覧ください。

### ●名義変更

名義の変更をされる方は、学会ホームページ上「各種手続き」の「各種変更」より専用フォームにてお手続きください。会員ポータルサイトからは変更のお手続きはできませんのでご注意ください。

### ●会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。学会ホームページ上「各種手続き」の「各種変更」より専用フォームにてお手続きください。正会員から学生会員へ変更を希望される場合は、有効期限記載の確認できる学生証のデータ添付が必要となります。

※学生会員は認定申請ができないとともに、研究発表、論文発表もできません。ご注意ください。

※認定をお持ちの方、必修講習会を受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

## ■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償で直接雇用のものに限定しますが、掲載を希望される際は、現在掲載されているページを参考に Word にて求人情報掲載内容を作成し、kanri@jmta.jp へお送りください。内容確認後、掲載可否についてお知らせいたします。掲載期間は3ヶ月です。なお、求人情報ページは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

## ■ 各種資料取り寄せ方法

各種資料の取り寄せを希望される方は、郵便局にて料金分の定額為替をご購入いただき、会員番号、氏名、希望資料の内容を明記した封筒（例、規則書必修講習会コース 請求）に同封の上、学会事務局までお送りください。その際、送付する為替には「なまえ」など何も記入しないでください。返信用封筒は不要です。

資料		金額（送料込）
認定規則書	必修講習会コース	500円
	面接試験	500円
	資格更新	500円
認定音楽療法士（補） 問題解説集	2011～22年度単年度版 ※希望年度を明記してください ※2001～2010単年度版は廃版となりました。	各1,000円
	2006～10年度、2011～15年度、2016～2020年度 五ヶ年分合冊版 ※希望年度を明記してください ※2001～2005年度五ヶ年分合冊版は廃版となりました。	各2,000円
その他	抄録の書き方	1,000円
	スーパービジョンの手引き	1,000円
	倫理ハンドブック	500円
	特別プロジェクト研究報告	500円
	音楽療法臨床ハンドブック	2,000円
DVD	音楽の力2012 ～音楽療法が拓く可能性～	1,000円
学会誌、学術大会要旨集、学術大会 講習会資料集（2018年度～）	日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌 バックナンバー、学術大会要旨集（第15回世界音楽療法大会含む）、2018年度以降の 学術大会講習会資料集のバックナンバーは学会事務局では取り扱っておりませんの で下記までお問い合わせください。 アカデミア・ミュージック株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634	

## ■ 各種証明書再発行手数料のお知らせ

学会の発行する各種証明書の再発行にはつぎの手数料がかかりますのでご了承ください。手数料分の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、希望の再発行内容を記載し学会事務局へお申し込みください。

- 音楽療法士（補）資格証明書、各種講習会受講証明書、学術大会参加証明書（第6回大会から）など  
手数料：500円
- 音楽療法士資格登録証明書、認定証  
手数料：2,000円  
※記載の住所や名義の変更も含まれます。  
※3×4 cmの顔写真、現在お持ちの登録証明書と認定証を同封し、学会事務局までお送りください。  
※登録証明書・認定証ともに再発行する場合も、一方のみを再発行する場合も手数料は一律2,000円です。  
※名義変更の場合は、氏名のローマ字表記を必ず明記してください。  
※1ヶ月程度お時間がかかりますのでご了承ください。

## ■ 事務局員職員の異動について

採用1名 増田 道夫（2023年11月1日付）

定款はニュース45号 P35～をご覧ください。